

CL季刊誌講読所感

C. S.



「世話をすると可愛くなる」

野良猫はこちらの計画と無関係に、ある日、どこからかやって来ます。保護すると、おなかに虫がいたり、目や耳に病気があったり、不妊の手術を受けたりと動物病院に連れて行き時間とお金がかかります。予定外の痛い出費です。

季刊誌 新CL寓話 愛するようになるにはの中で『スコットがカナリアの世話(行動)をしたら彼は鳥がかわいくなり(感情)始めました。ですから誰かを、何かを愛したいのなら、それにサービスをしたり世話をするのが一番です』という文章がぴったり当てはまります。

野良猫は選んでウチにいてくれますが、こちらに選ぶ権利は無いのです。一緒に暮らし世話(行動)をすることで掛け替えのない(感情)存在となります。鳴き声がうるさかったり、しつこかったり、ウンチがとんでもなく臭かったりしても、可愛いから許せてしまいます。

これまで3匹の野良猫を保護し、2匹の犬、インコたちと楽しく仲良く暮らせたのに元配偶者と仲良く暮らせなかった(離婚)のは何故なのだろうかと思ってしまう。

トラブルを起こさないためには、車の安全運転のように車間距離をとるなどのルールを守ることが互いに必要と思います。コントロールできるのは、自分の行動のみ。自分の感情も、配偶者の感情も、その行動もコントロールできないことです。それなのに配偶者を従わせよう、行動をコントロールしようとするなら。と、いうことでしょうか…。

「10年経てば…」

楽しいことも、悲しいことも立ち止まることなく走馬灯のように回り続けます。11年前の3月、入院中だった私は一日中病室の窓から山の上を流れる雲を眺めて過ごしました。二人部屋には私だけ。雲の形は常に変化し一日中飽きることはありませんでした。

雲だけでなく万物は変化し続け、感情もコロコロ変わりそれが10年続いたらどうなるのでしょうか。私の場合としては、家族構成が変わりました。大切なことの順位が変わりました。事実から身に過ぎたプレゼントも繰り返し頂きました。シワも白髪も増えました。

数少ない出来事

(その1)

10年前に行政から違法なはずの酷い仕打ちを受けました。後任の担当者に「自分の出世のために貧しい人達の命を粗末に扱った人のことを、私は何十年経っても許さない」と涙と共に訴えたこともありました。行政訴訟を狙うようになりました。

10年前の件での訴訟は無理でしたが、関連する件で4年前から準備を進め行政訴訟を始められる位置に来ることができました。国からの裁決書は70日以内で届く決まりなのに2年3ヶ月待たされました。厚労省は法律を守らないです。コチラの闘志を弱めるための厚労省の作戦だったと思います。

厚労省の作戦は功を奏し、ようやく正面から行政と争えるところまで10年かかって辿り着けたのに、62歳の私は編み物をしたり、裁縫をしたり、お花を植えたり、のどかに暮らしたいと思うようになってしまいました。

争って勝てば厚労省の基準の不備も改善されると分かっているけど、この10年間関連する社会運動(同じ会の弁護士さんに教わりながら書類を提出するだけですが)に参加して、もぐら叩きのように行政に叩かれ続け私の闘志は種火のように小さくなりました。

期限は9月です。代理人の弁護士の先生には「1ヶ月考えさせて下さい」とお願いしました。1ヶ月の間に事実さまはどのようにゆさぶりをかけて下さるか観察させて頂こうと思っております。

季刊誌—ありがとうは最高の贈り物の中に『起きてくることはどんなことでも「今なすべきことは」のきっかけです。事実私たちの学びにゆさぶりをかけてくれます。有り難いことです』と書かれていました。

仮に争うことを選ぶとしても途中でやめちゃうということもあるでしょう。その時は**季刊誌一日めくりCLポイント365日(十一)**で『行き先が転々としても目的地を知って、そこに向かって大まかで進んでください』というアドバイスを既に頂いております。「あ～。続けられなかった」とガッカリしながらもなすべき行動を始め、ひとつひとつを丁寧にキチンと行うことに集中するだけです。

争うなら、争わないなら、途中でやめるなら、これらは全て想像です。◇日めくりCLポイントの最後の行で読ませて頂いたように『想像は想像でなにもありません』私は今なすべきことをするのみです。

(その2)おばさんがふたりで

50歳からの10年より60歳からの10年のほうが変化が大きいと思います。

10年前残暑の頃、60代の女性Sさんと郵便局で偶然会いました。(なんとローカルな場所でしょう)「ダンナさんは元気？」と聞かれ「離婚したばかりです」と答えました。Sさんは「障がい者同士、これなら助け合っていぐべし」(これから助け合っていきましょう)と言って下さいました。

ところが「助け合い」ではなく私がお世話になるばかりでした。

半年後の津波や、大きな余震の時に泊めて頂いたり。浸水区域はガレキであふれ、道路だけが片付けられた時期に、車で定期的に食料の買い出しに連れて行って頂きました。猫、ガーデニング、読書等の共通点もあり、Sさんと親しくさせて頂いた10年間でした。

何年か前からSさんに痴呆の様子が見られるようになりました。30分間のうちに同じことを繰り返し聞いてきたり、言ったり。

同じことを聞かれる度に録音再生のように答える私。私の返事は同じでも、Sさんの反応は毎回異なります。「次は何て言うのかな？」と楽しんでます。かつて祖母とも同じようなやり取りを楽しみました。感情は次々変化するから、私の答えは同じでもSさんは違う感情で異なる反応をされるのではと思っています。

この10年間、Sさんとはトゲトゲした会話をすることもありましたが、今は60代と70代のおばあさんがふたり、ほっこりした会話が続きます。この先ご実家に戻ることになりそうですから家が近所のうちにお世話になったSさんにご恩返しをさせて頂かなくては。(岩手県大船渡市)